

次世代文化体験プロジェクトの研究

1 情報発信事業(新規)

□後援事業の市ホームページ等での周知

方向性

申請者の希望があり、公益性が高く、重点プロジェクトに合致する事業について、市ホームページで PR することにより情報発信をサポートする。その他の有効な PR 方法については、順次検討を行う。

2 アートフェスタくさつ(拡大)

□イオンモールとの文化振興に関する協定の締結 ※協定締結日:10月12日

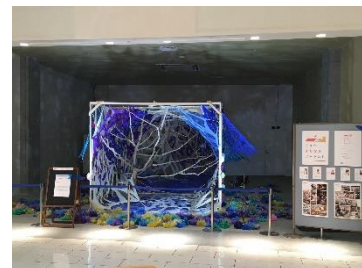
→協定を締結し、イオンモール草津、市内在住のアーティスト兼コーディネーターとの協働で各種事業を展開。毎月定例で開催するビワアートコレクションの他、アートフェスタくさつのプレイベントとして、10月5日～18日の間、ビワアートフェスをイオンモール草津館内で開催。



▼WS イベント(ビワアートコレクション)



▼1階通路の展示(ビワアートフェス)



▼空き店舗の活用(ビワアートフェス)

□ロジウラテラス、ロジウラクエストの開催 ※開催日:10月19日

→街道の路地裏に点在するお寺4カ所を新たな会場とし、大学生やアーティスト等のコーディネーターによる体験型のアートプログラムをアートフェスタくさつ内で実施。合わせて、お寺を題材とした謎解きゲーム「ロジウラクエスト」を開催。両イベントで600人程度の来場があり、アートに触れながら地域の文化的資産の歴史や価値について学ぶ機会となった。



▼民族楽器のコンサート(ロジウラテラス)



▼バッチづくり WS(ロジウラクエスト)



▼謎解きゲーム(ロジウラクエスト)

検証

多様なコーディネーターの活用により、人材発掘および育成を行うことができた。同時に、ワークショップの題材として、青花、勾玉、サンヤレ踊り等を活用することで、草津市の文化的資産のPR、活用にもつながった。

ロジウラテラス、ロジウラクエストの開催にあたっては、寺院や観光ボランティア等の協力を得、新たな関係性づくりにも取り組んでいる。

イベント参加者の満足度が高められるよう、今後も新たなプログラム開発や人材発掘は継続していく必要がある。

方向性

引き続き、イオンモール草津とは、市の施策や草津市の文化的資産と結び付けながら、子どもを対象としたワークショップイベントを開催予定であり、新たな展開についても協議中。アートフェスタくさつについても、中心市街地の活性化、文化的資産の活用にあつては、アートによるまちづくりの機運づくりと子ども達が多様な文化に触れる機会づくりを行う。

3 学校連携プログラム(新規)

□アミカホールウェルカムコンサート(草津中学校特別支援学級) ※開催日:1月20日

→ヒアリングの流れから草津中学校特別支援学級の生徒11名をアミカホールに招待。事前に生徒たちの好きな曲や、必要な配慮等について協議を行い、アーティストによる演奏、アルハーブ等の楽器の体験、合奏等を行った。

□こころの劇場(市内小学校11校/14校) ※開催日:1月8日

→市内の小学校全校に案内し、小学6年生1,200人に劇団四季のミュージカルを鑑賞いただいた。遠方にある学校については、公用バスを運行。児童が等しく文化に触れる機会を提供した。

□学校アート化計画(矢橋ふたばこども園) ※開催日:12月2日~9日

→滋賀大学との連携協定に基づき実施。立体作品を子どもたちの日常に出現させることで、子ども達の観察力、想像力、表現力、コミュニケーションを刺激。アートを幼児教育・保育に活用することの有用性を関係者間で共有した。



▼合奏の様子(ウェルカムコンサート)



▼送迎の様子(こころの劇場)



▼立体作品の一部(学校アート化計画)

検証

アミカウェルカムコンサートは、他の中学校にも広げる場合には面識のない生徒同士が同席することになるため、慎重に検討する必要がある。

全般的には、全学校一律での実施は困難であるため、希望校を募る形となるが、より多くの参加が得られるよう、効果的な周知策や必要な配慮を検討する必要がある。

方向性

就学前、小学校、中学校の各段階において、必要に応じ担当課とも連携しながら事業を実施。学校等との接点づくりを行い、ニーズを探った。

引き続き学校等と意見を交わしながら、文化ホールの指定管理と連携し各段階に向けたプログラムの検討を行う。